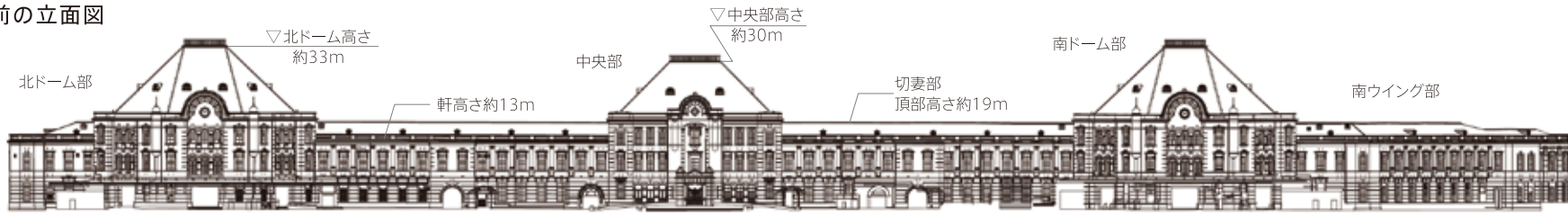
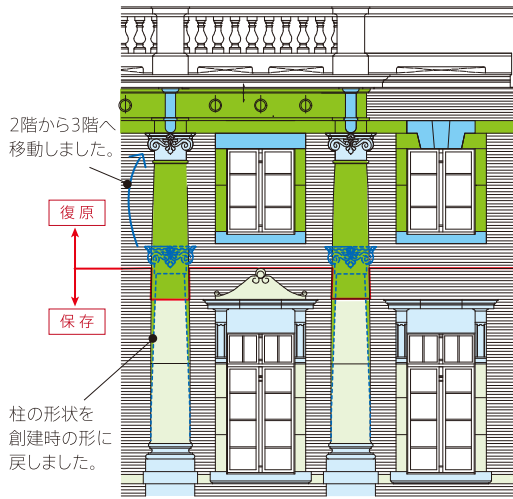
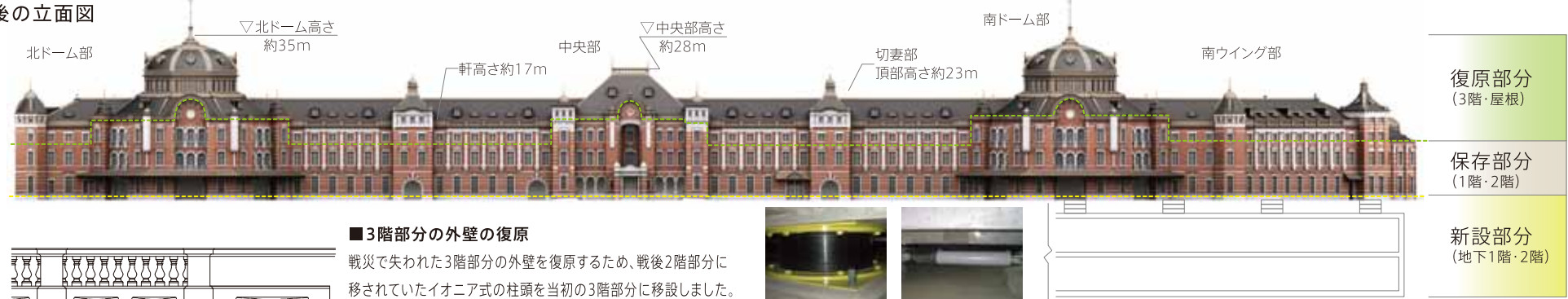


■ 復原前の立面図



■ 復原後の立面図

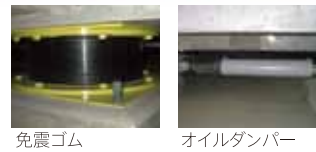


■ 3階部分の外壁の復原

戦災で失われた3階部分の外壁を復原するため、戦後2階部分に移されていたイオニア式の柱頭を当初の3階部分に移設しました。また、花崗岩の柱頭飾りや、銅の高欄部分はモックアップを用いてディテールや施工方法を検証し、創建当時の意匠を復原しました。

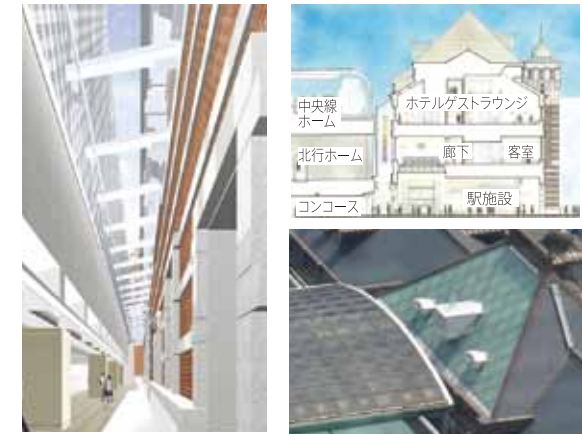
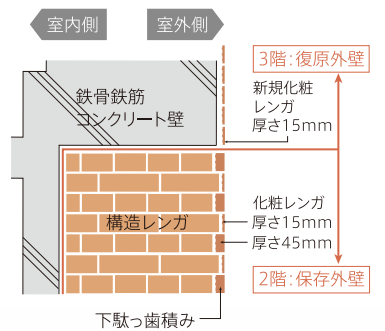
■ 外壁の保存と復原、線路側空間の再生

復原する3階部分の躯体は鉄筋コンクリートで作成し、外壁には当初と同じ仕様の化粧レンガを貼ります。2階以下は既存の構造レンガと化粧レンガを貼って、保存しました。線路側については、コンコース側の壁を撤去して、トップライトから採光された自然光により、復原された丸の内駅舎を間近に見ることが出来るようにしました。線路側の中央部の屋根をガラスにすることによって、屋根裏スペースをホテルの明るいゲストラウンジとして活用しました。



■ 免震装置

地上部分と地下部分の間に免震ゴムとオイルダンパーを設置し、耐震性能を向上させています。

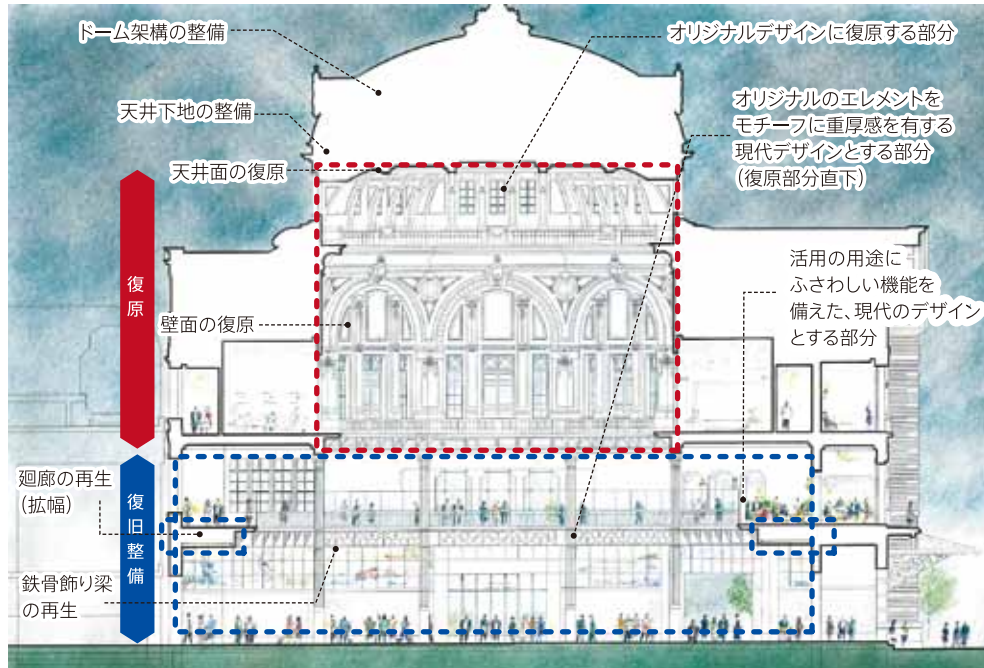


■ 線路側立面図



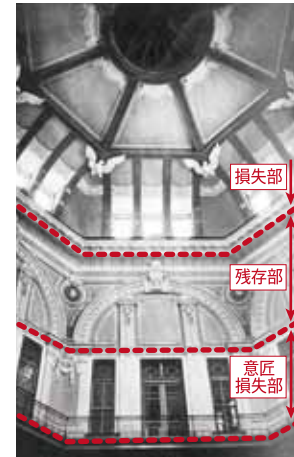
■ドーム内部の保存・復原の基本方針

ドーム内部の保存・復原の基本方針は部位によって異なります。まず、オリジナルデザインに復原する部分は、3階以上の壁面、ドームの天井面であり、創建時の意匠を忠実に再現しました。ドーム1・2階は、復原部分の重厚さを残しつつ、機能に即した新しいデザインにしました。ドーム見上げ部と調和を図り、ドーム全体として歴史と未来を融合したデザインにしました。



■ドームの変遷

創建時の八角形の天井と鷲の彫刻のある折上天井は、戦災によって焼失しましたが、3階壁面のアーチ等のレリーフはかろうじて残存しました。戦災復興工事によって、失われたドーム屋根に代わり木造八角形の屋根が載せられ、内部では3階部分の窓の開口部は保持されましたが、残存したアーチ等のレリーフは、新たに新設されたローマのパンテオン風の意匠による金属性ドームの裏に隠れました。3階張り出し部を支えていた装飾の付いた鉄骨の柱も、RCで補強された円柱に代わったため、全体として機能的な装飾のない意匠となりました。そして平成24年(2012年)、創建時のドーム屋根の外観とともに、3階以上の内部空間も、創建時の意匠に忠実に復原されました。



創建時のドーム見上げ写真



戦災復興後のドーム見上げ写真



復原後のドーム見上げパース

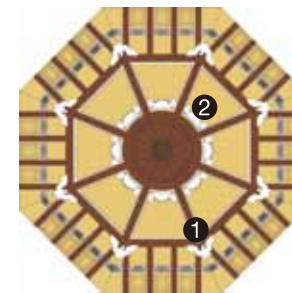
■ドームレリーフの復原

ドーム3・4階と天井は、創建時の姿に復原され、干支や2mを越える大きさの鷲の彫刻など見事な造形が甦りました。ドームに施されたレリーフは、南北のドームで全く同じものです(白黒写真は、創建当時の写真)。

- ① 鷲型の彫刻
- ② 花飾りレリーフ
- ③ 干支(戌)のレリーフ
- ④ 兜型(秀吉の兜)のキーストーン
- ⑤ 鳳凰型のレリーフ
- ⑥ 剣型のレリーフ



ドーム部天井見上げ



ドーム部展開図(3階以上)

